

1 研究主題

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成

～Relevance を高めたタスク活動の工夫を通して～

2 研究の経過と概要

(1) 研究主題の設定理由

急激に変化する社会において、今後ますます国際化が進展し、国際的な相互依存が深まることが予想される。様々な情報媒体の発達により、世界中の情報を瞬時に得ることができる今、英語は国際的共通語としての役割も大きく、英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020年の東京オリンピックを見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が出され、今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも、将来にわたり、英語学習に意欲的にとりくむ児童・生徒の育成が急務であると考え。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。一方、外国語活動にあまり意欲的に取り組まない児童や、語彙力や文法知識が定着していない生徒がいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語（英語）活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには、学習の原動力や推進力となり、最後までやり遂げようとする学習意欲を高めることが最も重要であると考え。山梨大学の田中武夫先生も、「現存の学校教育が直面している最も大きな課題の一つは、生徒たちの学習意欲が下がっていることです。～中略～ 学ぶことが知的に面白い、役立ちそうだといった生徒の内発的な動機いかに高めていくかが、今の教育の大きな課題となっています。」（『英語教師のための発問テクニック～英語授業を活性化するリーディング指導～』p.4）と著している。

そこで、外国語（英語）活動において、児童・生徒自身との関連性や、既習事項との関連性をもたせたタスク活動（activity）を仕組むことで、学習者が活動を身近に感じ、より意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。

(2) 研究目的および研究仮説

①研究目的

英語学習における基礎学力を児童・生徒に身に付けさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

②研究仮説

タスク活動において、児童生徒や目標との関連性をもたせた学習活動を取り入れることによって、児童生徒の学習意欲が高まるだろう。

③仮説の検証方法

研究主題にせまるためのタスク活動の検討と実践。
指導案検討や研究授業を通して仮説の検証をする。

(3) 研究内容

- A (attention) R (relevance) C (confidence) S (satisfaction) モデルを学ぶ。
提案者：John M. Keller 学習意欲（動機づけ）を以下の4つ側面に分類した。
①Attention（注意）「おもしろそうだ」②Relevance（関連性）「やりがい、意味がある」
③Confidence（自信）「やればできそうだ」④Satisfaction（満足感）「やって良かった」
- 学習意欲についての文献研究を行う。
- 先行研究から学ぶ。
- 研究テーマにせまるための指導案作成と授業実践
- 関連性を高めたタスクの検討と実践
- 小中連携を意識した活動の展開を検討する。
- 小学校英語科について学ぶ。

(4) 研究の経過と今後の予定

月 日	内 容	司会・記録
5月 8日	組織決定・今年度の研究の方向性について	山北中
5月20日	研究の方向性・統一授業研について・小中分科会	山南中・牧一小
6月 3日	校種別事例研究①・中学校 CAN-DO リスト 夏季学習会について	勝沼中・山南中
8月 3日	タスク活動についての学習会（講師：山梨大学教授 古家貴雄先生）・統一授業研指導案検討	塩山中・笛川中
8月28日	統一授業研究（授業者：山梨南中学校 筒井先生）	松里中・井尻小
9月30日	校種別事例研究②・学年別タスク活動の検討	岩手小・松里中
11月25日	校種別事例研究③・学年別タスク活動の検討	日下部小・大和中
1月13日	統一授業研指導案検討・事例研究実践報告	八幡小・勝沼中
2月 3日	統一授業研究（授業者：塩山北小学校 小宮山先生）	日川小・牧二小
2月10日	研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について	笛川中・塩山北小

(5) 研究組織および部員

- 助言者 中村 勝（玉宮小学校）
- 部長 広瀬竜太（山梨北中学校）
- 副部長 丸山正史（勝沼中学校） 筒井栄太（山梨南中学校）
- 部員 三枝ゆかり（塩山中学校）平井成二（塩山中学校）野沢喜満子（塩山中学校）
関岡由香子（松里中学校）天野由梨（勝沼中学校）奥田真由美（大和中学校）
古屋浩紀（山梨北中学校）依田 久（山梨北中学校）
中村大介（山梨北中学校）長嶋明美（山梨南中学校）
水上かおり（山梨南中学校）大村隆（山梨南中学校）辻 由樹（笛川中学校）
小宮山公仁（塩山北小学校）神宮司剛（井尻小学校）中村弘和（井尻小学校）
飯室 林（岩手小学校） 日野原和貴（八幡小学校）
中山しのぶ（日下部小学校）藤木真里佳（日下部小学校）
岩下秀人（日川小学校） 岩下 城（牧丘第一小学校）
本宮知子（牧丘第二小学校）

第6学年 外国語活動学習指導案

指導者 小宮山 公仁
ALT カークライト・イダソ

- 1 単元名 将来の夢を発表しよう！
「What do you want to be?」(Hi, friends! 2—Lesson 8)

2 単元について

本単元は、2年間の外国語活動のまとめとして「将来の夢」を題材にしている。本単元の最後には、これまでの外国語活動の学習を生かして、各児童が将来どのような職業になりたいのかを発表する「夢宣言」という活動を設定している。卒業を迎えるにあたり、お互いの夢を語り、共感することで自己肯定感を高めることが期待できる。

第1時には、英語における様々な職業の言い方を知るために、ゲームを通して多くのインプットを与える機会を設けるようにしている。その中で、児童が英語と日本語の違いや共通点に気付けるように仕組んでいきたい。

本時である第2時には、タスク活動として、リサーチゲームを行う。ゲーム後、グループ毎に、集めた情報を参考にして「人気のある職業」を推測し、ホワイトボードにて発表する活動を仕組む。このことにより、単にコミュニケーションをすることを目的とした活動よりも、積極的により多くの児童とコミュニケーションを図ろうと取り組むこと、そして友達が選ぶ将来になりたい職業をしっかりと聞き取ろうと努めることが期待できる。また、「What do you want to be?」「I want to be a(an) ~.」を使ったインフォメーション・ギャップの活動を取り入れることで、「友達に自分のことを分かってもらいたい」そして「友達のことを知りたい」という意欲的な姿勢が生まれるとともに、コミュニケーションの楽しさ(interesting)を感じることができると考える。

第3時には、第4時に行う「夢宣言」スピーチの原稿作りとスピーチ練習を行う。児童がこれまで「Hi, friends!」を活用した外国語活動を通して学んだ「I am ~.」「I like ~.」「I can ~.」等の表現を取り入れ、本単元において学ぶ「I want to be a(an) ~.」と組み合わせることで「夢宣言」スピーチを作る。その際、担任やALT、そして英和辞典を活用し原稿を作ったり、スピーチ練習を行ったりすることで、英語の文字や音声へ慣れ親しむことが期待できる。また、画用紙に将来就きたい職業のイラストを描かせ、その裏にスピーチ原稿を貼らせるようにし、次時には、ショー・アンド・テルの形式で発表させたい。

第4時には、「夢宣言」スピーチを行う。第1時から繰り返し練習し、慣れ親しんだ表現を用いて将来の夢について発表する。小学校における外国語活動のまとめであることを意識させ、第3時から第4時にかけての期間に各自で練習をすることを促すとともに、担任が個に応じた指導を行い、「夢宣言」スピーチに対するモチベーションを高めるような工夫をしたい。児童は、友達にスピーチを聴いてもらうという相手意識を持って活動に取り組むことができ、活動意欲につながると考える。

山梨県教育課程指導資料を受けて、本単元では「見通し」として、第1時のはじめに先生の「夢宣言」スピーチを見せる。その後、本単元の4時間計画の流れを児童に伝える。そのことで第4時に自分が行うスピーチというゴールを見通して主体的に授業に取り組むことができるであろうと考える。また、毎時間のはじめには本時のめあてと流れを児童に伝える。このことも児童が安心して主体的に授業に参加できる要素となるであろう。そして「振り返り」としては、ナイスコメントカードを活用し、毎時間のめあてに対して児童がどれだけ取り組めたかを自己評価できるようにし、自分の現状を把握するとともに、次時の意欲へと繋げていきたい。また、新しい語や表現に慣れ親しませるために、インプットからアウトプットへ段階を追って展開することで、児童はスピーチに必要な力を積み上げていくことができ、スモールステップの達成感から学習に対する意欲が高まると考える。

3 児童の実態

男子16名、女子26名（特別支援学級在籍児童2名）、計42名の学級である。男女の仲が良く、休み時間や放課後には一緒に遊んだり、話をしたりする姿が見られる。学習に対する意欲は高くなってきており、話を聞く態度などの学習規律も身につつつある。友達同士の学び合いの姿が授業中にもよく見られる。

外国語活動の時間を毎週楽しみにしている児童が多い。ALTに対しても友好的に接し、自ら話しかける児童も見られる。活動の中で、友達や教師と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度も多く見られる。一方で、英語を話すことに対して恥ずかしさや苦手意識を持っている児童も見られるが、ゲームなどの活動においてはがんばって英語を話そう、聞こうとチャレンジしているようである。担任としても、外国語活動の時間においては、なるべく英語を話すという姿勢を児童に見せる様にしたたり、苦手意識を持っている児童に声かけを多くするようしたりと学級の雰囲気づくりを心がけていることで、英語を話すことに対して、積極的な姿勢が見られるようになってきた。

また、特別支援学級在籍児童の2名においては、外国語活動に対して苦手意識が強く、理解に時間を要するため、担任や講師の先生がより個に厚く支援することで、徐々に参加しようという意欲が見られるようになってきた。

『英語の学習アンケート』から（9月実施）

①英語の学習は楽しいですか。			
すごく楽しい 15	楽しい 24	あまり楽しくない 3	楽しくない 0
②英語の学習に進んで参加していますか。			
進んで参加している 22	どちらかといえばしている 19	どちらかといえばしていない 1	進んで参加していない 0
③英語の学習で楽しいと感じるところはどんなところですか。（選択）			
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ（38） ・英語を聞いて言葉が分かったとき（21） ・英語を読むとき（19） ・英語を書くとき（17） ・英語で質問したり答えたりするとき（12） ・ALTの先生とはなすこと（7） 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に活動するところ（31） ・外国のことが分かったとき（21） ・英語を話すとき（17） ・思ったことや考えたことを英語で話すとき（13） ・担任の先生が教えてくれるところ（9） 	
④先生やALTが話している英語を聞きとることができましたか。			
よく聞きとれる 28	少し聞きとれる 12	あまり聞きとれない 1	全く聞きとれない 1
⑤英語の学習の時、進んで話そうとしていましたか。			
進んで話そうとしていた 16	少し話そうとしていた 22	あまり話そうとしなかった 4	全く話そうとしなかった 0
⑥英語の文字を読みたいと思いますか。			
とても思う 24	少し思う 14	あまり思わない 3	思わない 1
⑦英語の文字を書きたいと思いますか。			
とても思う 31	少し思う 9	あまり思わない 1	思わない 1
⑧外国のことをもっと知りたいと思いますか。			
とても思う 27	少し思う 12	あまり思わない 2	思わない 1

⑨もし、あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら、あなたはどのように思いますか。（選択）			
・ジェスチャーを使って受け答えをする（26）	・英語で受け答えをする（12）		
・わからない（2）	・日本語で受け答えをする（1）		
・だまっている（1）	・その場から逃げる（0）		
⑩将来、生活の中で英語を使ってみようと思いますか。			
とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
14	21	6	1

4 研究との関わり

今年度の外国語教育研究部会のテーマである「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～**Relevance** を高めたタスク活動の工夫を通して～」を受けて、本単元の最後に「夢宣言」スピーチを行う。単元を貫くタスク活動として「夢宣言」スピーチを設定し、毎時間の展開や活動をゴールに向かって仕組むことで、単元を通じた関連性を持たせることができる。次に、自分の将来の夢について考えて、お互いに交流するという活動を仕組むことで、児童自身との関連性を持たせることができる。そして、これまでの外国語活動で学んだことを生かしてスピーチづくりを行うことで、既習事項との関連性を持たせることができる。以上の3点の関連性から、英語学習に対する意欲を高めることにより、コミュニケーションへ主体的に取り組むようになり、英語の表現をたくさん繰り返し慣れ親しむことが期待できると考える。

また、卒業を迎えるこの時期は将来について考え、学級活動等において文集を作ったり、図画工作において「12年後の自分」を作ったりする時期である。それら他教科と関連させて外国語活動を行うことで、より**Relevance** を高められると考える。

第2次である本時では、タスク活動の工夫として「人気のある職業」を最終的に答えることを目的とした「リサーチゲーム」を仕組むことで、児童はより多くの友達から情報を集めようと考え、活動に対して意欲的に取り組むと考える。よって意欲を高めることにより、活動の中でターゲットセンテンスをより多く繰り返すことになり、外国語へ慣れ親しむことができると考える

5 単元の目標

○積極的に自分の将来の夢について交流しようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○どのような職業になりたいのかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

○世界にはさまざまな夢をもつ同年代の子どもがいることを知り、英語と日本語での職業を表す語の違いや共通点に気付いている。

【言語や文化に関する気付き】

6 指導計画と評価計画

時	目標・活動	評価			言語材料
		コ	慣	気	
1	様々な職業の言い方を知り、慣れ親しもう！ 『カルタ取りゲーム』 『ビンゴゲーム』 『キーワードゲーム』 【Let's Listen】		○	○	teacher, singer, florist, cabin attendant, baker, dentist, doctor, cook, farmer, comedian, vet, artist, zoo keeper, fire fighter, soccer player, bus driver... I want to be a ...

2	なりたい職業について、尋ねたり答えたりする表現を知り、慣れ親しもう！ 『リレーゲーム』 『なりきり インビュゲーム』 『リサーチゲーム』 (information gap)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・なりたい職業について尋ねたり答えたりしている。 (行動観察) ・友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 (行動観察) 	<p>What do you want to be? I want to be a ... Thank you. See you.</p>
3	「夢宣言」スピーチの準備をしよう！ 【Let's Chant】 【Activity】	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢宣言」スピーチの準備を行い、繰り返し練習している。 (行動観察) ・世界にはさまざまな夢をもつ同年代の子どもがいることに気付いている。 (行動観察・振り返りカード) 	<p>What do you want to be? I want to be a ... Hello, everyone. My name is ○○. I like ~. I want ~. I can ~. I have ~. I play ~. Thank you.</p>
4	「夢宣言」スピーチを行おう！ 『夢宣言をしよう』 (show and tell)	○		<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を持って自分の夢を紹介している。 (行動観察) 	<p>Hello, everyone. My name is ○○. I want to be a ... I like ~. I want ~. I can ~. I have ~. I play ~. Thank you.</p>

7 本時の学習（2／4時）

(1) 日時 平成28年2月3日（水） 5校時（14：00～14：45）

(2) 場所 甲州市立塩山北小学校 6年教室

(3) 目標 ・なりたい職業について尋ねたり答えたりしている。（外国語への慣れ親しみ）
・友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

(4) 展開

展開	児童の活動	指導者の活動 ○HRT ☆ALT ◎評価	備考
Let's start (5min)	<p>1. あいさつをし、ALT や HRT と簡単な会話をする。</p> <p>2. 今日のめあてと流れを確認する。</p>	<p>☆Hello! How are you? How is the weather? What day is it today? What is the date today?</p>	<p>～流れ～ 1. 復習&知る 2. リレーゲーム 3. なりきり インビュゲーム 4. リサーチゲーム 5. 振り返り</p>
<p>なりたい職業について、たずねたり答えたりする表現を知り、慣れ親しもう！</p>			

<p>Let's review (10min)</p>	<p>3. 前時に学んだ表現を思いだし、なりたい職業を尋ねる表現を学ぶ。</p>	<p>○☆デモンストレーションを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ What do you want to be? ☆ I want to be a(an) ～. What do you want to be? ○ I want to be a(an) ～.</p> </div> <p>○前時に学習した“I want to be a(an) ～.”について確認し、新しく学ぶ“What do you want to be?”について推測させる。文について確認後、発音練習させる。</p> <p>○☆①バックアップテクニック → センテンス ②クラスを半分に分け、一方が質問し、もう一方が ALT が提示した職業絵カードを答える。役割を交代しながら、数回練習する。</p>	<p>職業絵カード（黒板用）</p>
	<p>4. 『リレーゲーム』を行う。</p>	<p>○☆リレーゲームの説明を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>～説明～</p> <p>①ALT が職業絵カードから1つ選ぶ。 ②各列先頭の児童が2番目の児童に“What do you want to be?”と尋ねる。 ③2番目の児童は、先頭の児童に“I want to be a ～.”と ALT が選んだカードの職業を答え、3番目の人に“What do you want to be?”と尋ねる。 ④以降、同様に繰り返す、一番後ろに児童は先頭の児童に尋ね、先頭の児童が答えたら、列全員で“Finish!”と言って立ち上がる。</p> </div> <p>○☆児童の様子を観察しながら支援したり、がんばりを褒めたりする。</p>	
<p>Let's try② (5min)</p>	<p>5. 『なりきりインタビューゲーム』を行う。</p>	<p>○☆なりきりインタビューゲームの説明を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>～説明～</p> <p>①ペアで1セットの職業カードを準備する。 ②裏返しの状態で二人の間に置く。 ③それぞれ一枚ずつ引き、お互いが相手に“What do you want to be?”と尋ね、“I want to be a(an)～.”と答える。 ④時間内は何度も繰り返し、カードが無くなったシャッフルして続ける。</p> </div> <p>○☆児童の様子を観察しながら支援したり、がんばりを褒めたりする。</p>	<p>職業絵カード（児童用）</p>
			

<p>Let's try③ (15min)</p>	<p>6. 『リサーチゲーム』を行う。</p>	<p>○☆リサーチゲームのデモンストレーションを行う。</p>	<p>リサーチゲームプリント</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Q Hi! ☆ Hi, What do you want to be? ○ I want to be a(an) ~. What do you want to be? ☆ I want to be a(an) ~. ○ Thank you. ☆ Thank you. See you.</p> </div> <p>【タスク活動として】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動後に、このクラスで人気のある職業を質問することを伝える。そのことにより、児童がよりたくさんの児童とコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まり、外国語へ慣れ親しむことを促す。</p> </div> <p>○活動時間は10分間とする。活動前にグループにおいて、どのようにリサーチするか作戦をたてる時間をとる。 ○☆児童に混ざって一緒にゲームを行うことで、指導と評価を行う。 ○男女関係なく、いろいろな人とできるだけたくさんゲームを行うように、相手を男女交互に変えるよう指導する。また、日本語を使わず、英語でコミュニケーションを図っているか観察する。</p>		
	<p>◎【外国語への慣れ親しみ】 就きたい職業について尋ねたり答えたりしている。 (行動観察・ワークシート)</p>		
	<p>◎【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>○ゲーム終了後、席に着くよう指示をする。このクラスで人気のある職業は何か質問し、グループで話し合い、持っている情報から予想させ、ホワイトボードに1つ書かせ、発表させる。教師側は人気No.3まで事前に調べておき、発表する。</p>	<p>ホワイトボード</p>	
<p>Let's look back (5min)</p>	<p>7. 振り返りカードを書く。 8. 次時に行くことを聞く。 9. あいさつをする。</p>	<p>○振り返りカードを配布し、書かせる。 ○数名の児童に発表させる。 ○次時は「『夢宣言』スピーチ」の準備を行うことを伝える。</p>	<p>振り返りカード</p>

8 板書計画

めあて

なりたい職業について、たずねたり答えたりする表現を知り、慣れ親しもう！

～流れ～

1. あいさつ
2. リレーゲーム
3. なりきり
インデュゲーム
4. リーダーゲーム
5. ふり返り
6. あいさつ



- Q Hi!
- ☆ Hi,
- What do you want to be?
- I want to be a ~ .
- What do you want to be?
- ☆ I want to be a ~ .
- Thank you.
- ☆ Thank you. See you.



9 ナイスコメントカードより

2時間目	1	英語のゲームを楽しんだ。	◎, ○, △で記入しよう→	◎	
	2	英語で職業をたずねる語をたくさん言った。	◎, ○, △で記入しよう→	◎	
月 日		英語で職業をたずねる活動を通して気付いたことを書きましょう。	たずね方と答え方の WANT to be が同じだからで発音しやすかった。		
		今日の学習中に気付いた、友達のナイスなことをコメントしよう。	[] さんの盛り上げ方が良かった。 大事なポイントに気がつきました。		

2時間目	1	英語のゲームを楽しんだ。	◎, ○, △で記入しよう→	◎	
	2	英語で職業をたずねる語をたくさん言った。	◎, ○, △で記入しよう→	◎	
2月3日		英語で職業をたずねる活動を通して気付いたことを書きましょう。	たずねるときは最後に「a (an)」が付かないね。答えるときは「a (an)」が付く。		
		今日の学習中に気付いた、友達のナイスなことをコメントしよう。	[] の発音が良かった。 「a」が言えようね。		

2時間目	1	英語のゲームを楽しんだ。	◎, ○, △で記入しよう→	◎	
	2	英語で職業をたずねる語をたくさん言った。	◎, ○, △で記入しよう→	◎	
2月3日		英語で職業をたずねる活動を通して気付いたことを書きましょう。	日本語の「～家、～人に似ているね」 最後に「mer」や「hist」が付いたのが多かった。		
		今日の学習中に気付いた、友達のナイスなことをコメントしよう。	難しい職業でもしっかりと言っていた。 何もくりかえして言っていた。		

①既習事項との関連性について

- 1時間目に「夢宣言をしよう」の例を見せたことにより、ゴールを意識することができ、学習内容が子ども達にとって必要になり、関連性を図ることができた。
- 「I want to be ～」が、よく言えていた。前時までにインプットを繰り返し、慣れ親しむことができたのだろう。前時の学習内容がしっかりと定着しており、本時の学習につながっていた。
- 「目的指向性の一致」という意味で **relevance** がしっかりあったと思う。

②児童自身との関連性について

- 6年生の3学期という時期としても、職業について質問する・答えるという活動はとても良い題材であったと思う。最終的に「夢宣言」をスピーチとして発表すること、卒業を3月に控えているこの時期に行う活動として大いに関心のある内容だったと思う。
- 今回の活動が、その後の卒業に向けての活動に良い影響を与えることが想像できる。

③タスク活動の工夫について

- タスク活動として、「クラスの人気のある職業を調べる」という目的をもったリサーチゲームであった。友達のなりたい職業をリサーチするという目標が児童の意欲に結びついており、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。
- スモールステップのゲームを通して、知らず知らずのうちに、インプットとアウトプットを繰り返し、タスクにつなげることができていた。
- リレーゲームやなりきりゲームを通してたくさんのインプットとアウトプットを行えたのでターゲットセンテンスを児童は身につけることができたと思う。
- タスク活動の目的をあきらかにして、目標を達成するために作戦会議という流れが良かった。
- 班ごとに予測を立てることで、ただ単に機械的な会話練習にならずに、活発な活動になったと思う。
- 男女交互という約束を守り、意欲的に活動を行っていた。また、リサーチのため多くの情報を集めようと、たくさんの友達にインタビューしていて、表現に慣れ親しんでいた。

④Relevance（関連性）を意識することで、児童の意欲あるいは授業にどんな変化があったか

- 指示が全て適切で、児童もよく聞いていた。きっと外国語活動に限らず、他教科でも意欲的なクラスなのかと感心した。
- 42人の児童数に圧倒された。しかし、活動の様子や雰囲気を見ていて、親和的な学級だと感じた。
- 自分のことを伝える、仲間のことを知ることができるということ。また、答えやすい職業のことだったので、児童は意欲的に学習することができていたと感じた。
- **Relevance** 以外の要素による意欲を高める工夫がたくさんあったと思う。
- 全体的に英語を使うことに前向きな姿勢が見られたと思う。普段の授業の中でのクラス全体の雰囲気が学習に対して意欲的になってきているのではないかと思う。

11 研究授業後（第3時・第4時について）

○第3時 「夢宣言」スピーチの準備をしよう！



ALTに英語訳のアドバイスをもらっている。



ALTに英語の発音を教わっている。



英和辞典を使い、英文を作っている。



友だちと協力し、スピーチの練習。

○第4時 「夢宣言」スピーチを行おう！



将来の夢を絵に描き、見せながら「夢宣言」スピーチを行った。

1.2 成果と課題

今年度は、本研究会主題の継続研究二年目であった。最初の研究会では、普段の授業実践と多く結びついた、ARCSモデルの中のR(Relevance)を高めるための活動を再確認した。そして、「児童・生徒のRelevanceを高めるために、どんな工夫が考えられるか？」の問いを立て、様々なアイデアを創出してスタートした。研究活動においては、小中に分かれてのタスク活動の検討、そして統一授業研究を実施してきた。夏季学習会では講師を招聘し、昨年度は曖昧であったサブテーマの「タスク活動」について学習会を設けた。「Activity」との違いを明確にすることで、研究授業の立案、授業実践にも変化があった。同時に、授業内での児童・生徒のコミュニケーションの目的・目標も明確になり、意欲的に取り組む姿勢が見られた。

研究授業では、部会サブテーマにある「Relevance」を高める工夫や「タスク活動」を取り入れることで、意欲を持たせる点を中心に指導案検討し、授業実践につなげた。授業研究では、これらの点に焦点を当てた授業を行い、研究討議を行った。研究討議の中では、本部会の研究テーマにあるように、タスク活動を工夫していくことで、最終的には児童・生徒が意欲的に英語を学習する姿を目標にしていることを再確認しながら、授業で行われた実践を改善したり、更に高めたりする方法について、様々な意見が出された。また、中学校での授業内容と小学校で取り扱っている「Hi, friends!」との関連性も大事にしていくことが必要であるという、小中連携を意識した意見も多く出され、本部会の研究が厚みを増していくことが感じられた。

授業研究の後、これまでの研究を踏まえ、学年ごとに分かれ、具体的な活動を検討し、部員がそれぞれ学習意欲を高める活動の実践を行い、その成果や課題などを部会で発表し、研究討議を行っていく予定である。部員全員が実際にテーマに沿った授業実践を行うことで、さらにテーマに迫ることができるのではないかと考える。また、議論を深めることで、今年度の研究を実際の児童・生徒のためになるような確かなものとしていきたい。

本年度も多くの小学校の先生方が部会に所属し、小中連携を意識した活動に取り組んでいる。昨年度の1月には小学校の研究授業を参観することができ、本年度も2月には小学校の授業を参観する予定である。また、研究会の際には、小学校外国語活動の現状や今後の動向について情報交換をして学び合い、中学校ではどんな形で活用していけるかを検討した。互いの授業を参観するだけにとどまらず、互いの実践を活用し合うこと、今後の動向を共有しておくことで、小学校から中学校への繋がりがスムーズになるだろうと考えている。小中連携を念頭に置き、より多くの接点を意図的に作ることで、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。